



明日へつなぐ

岡山ボランティア考

《5》

岡山県は今年、海外の自然災害などに対する県の貢献活動のあり方を定めた「国際貢献活動推進条例」を制定した。都道府県レベルでは初の取り組みだ。県内には国際貢献活動に取り組み約100のNGOやNPOがある。

岡山市に本部を置く国際医療援助団体「AMDA」。この20年間、国内外の災害や紛争地で幅広い活動を続けてきた。AMDAが03年からスリランカで取り組んでいるのが「医療和平プロジェクト」。19年にわたって繰り返

国際

り上げられた内戦停戦後、対立する勢力に公平に医療を提供することを、平和を構築しようと試みた。現地統括として1年間、活動した岡山

貢献「先進国の義務」

査員として会議外交も経験したが、「紛争の現場を見たい」とプロジェクトに志願。巡回診療のため物資や車の手配、政治勢力との交渉、地元スタッフの指導などプロジェクト全般を管理する重要な役目を果たした。

本から海外へ出ること、それ自体に意味がある」と語る。

1年間、現地スタッフが務めた倉敷市の小野祐喜さん(29)はある家族が忘れられない。両親が6人の子供のうち3人がエイズに侵されており、父親は地雷で片足を失っていた。施設の中でトラブルメーカーだった両親が、誰よりも熱心

た。笑顔を見せなかった母親の表情が柔かくなった。「私自身が彼らに与えてもらうことの方が多かった。小野さんは今、児童福祉の道を志している。

「国際貢献先進県」を表現するには、人材育成も課題だ。01年、AMDAと県の協力で、公設国

山根さんは93年、カンボジアの国連平和維持活動(DPKO)で文民警察官の高田晴行警視が殺害された事件をきっかけに、国際紛争に関心を持った。国連代表部専門調

和感を持つ。「自分の能力を把握し、それに合う任務を確実に遂行する。プロフェッショナルの意識が必要だ」プロジェクトに看護師として参加した西多町の丸山純子さん(28)が印象深かったのは、現地で岡山のうち一本を差し出した。それを断ると、5人が5分の1ずつを分けてくれた。その時の経験が、今も村田さんを突き動か

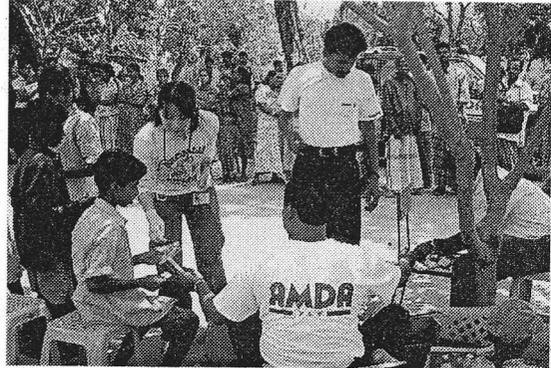
村田さんはカメラマンとしてボル・ポト政権崩壊後のカンボジアを取村。タイの国境からラバンへ向かう列車の中で5人の家族に出会った。空腹に苦しむ村田さんに、家族は5本のバナナのうちの1本を差し出した。それを断ると、5人が5分の1ずつを分けてくれた。その時の経験が、今も村田さんを突き動か

「先進国の豊かさ、発展途上国の苦しみの上に成り立っている。国際貢献は先進国の義務だ」と話すのは、倉敷市のNGO「カンボジアの村を支援する会」代表の村田みつおさん(54)。地雷障

害者やエイズ患者家族の自立支援、人身売買からの保護など、設立から5年で着実に活動範囲を広げてきた。

村田さんはカメラマンとしてボル・ポト政権崩壊後のカンボジアを取村。タイの国境からラバンへ向かう列車の中で5人の家族に出会った。空腹に苦しむ村田さんに、家族は5本のバナナのうちの1本を差し出した。それを断ると、5人が5分の1ずつを分けてくれた。その時の経験が、今も村田さんを突き動か

「野村房代」(次回は1月9日に掲載予定)



スリランカの北部地域で、巡回診療にあたるAMDAスタッフら (AMDA提供)

阪神大震災10年